

魅力ある学校づくり協議会 (上板橋第二中・向原中) ニュース

第5号

発行日：平成 27 年 1 月 28 日
開催日：平成 26 年 12 月 9 日
発行：板橋区教育委員会事務局
新しい学校づくり担当課
学校配置調整担当課長
電話 3579-2624

近隣小学校からもご参加（オブザーバー）いただきました

第五回協議会より上板橋第二中・向原中の通学区域内小学校（板橋第十小・上板橋第二小・大谷口小・向原小）から参加者（オブザーバー）を迎えて協議会を開催しました。

校地・校名・統合方式等についての意見（抜粋）

前回の協議事項の整理等を行い、これまでの協議を踏まえて各委員からご意見をいただきました。

委員 (1)：上板橋第二中より向原中の校地面積のほうが約 2,500 m² 広いです。新校舎を建設する際は道路から 1.5 m 後退して自主管理歩道を設ける必要がありさらに狭くなります。学校の規模から考えて、上板橋第二中の校地では文部科学省令による校庭の面積基準を満たさなくなることで、部活動を考えると広い校庭が望ましいこと、以上の理由から校地は向原中がよいと思います。しかし、地域を思うと校舎が向原中に移り名前も変わってしまうのは立つ瀬がありませんので、上板橋第二中の校名を残して、校舎は向原中に建てるのが一番よいのではないのでしょうか。

委員 (2)：この先入学する生徒が長く生活することを考えますと、設計の自由度があり、校庭も広く確保できる向原中に新校舎を建てた方がよいと思います。統合の方法は、できることなら何らかの形で向原中の名前、伝統を引継いでほしいと思っています。統合後とともに、統合までの 3 年間のことも気にかかるところです。3 年生が卒業して、全校生徒が 50 名台の学校を 3 年間維持していくには、色々不都合が出てくる可能性があります。学校を存続し教育活動の推進に力を尽くしていきたいと思っていますが、学校行事等の場面で保護者、地域の皆様にもご協力をいただく場面があるかと思っています。統合前年度に生徒がどのくらい入学してくれるのか等様々な心配はありますが、皆様の協力をいただきながら進めていきたいと思っています。

委員 (3)：上板橋第二中に校舎を建てるメリットは平坦であることですが、教育委員会としてどういう学校にしたいと構想されているのでしょうか。構想があつて初めて 30 年後、50 年後のこの地域の子どもたちの育ちのために真剣な議論ができると思います。次回、教育委員会の方向性を示すというのは、順序が違う気が強くしています。校地の広さだけではない部分があると思うので、判断できていません。教育委員会として構想や、どちらがよいという考えはあるのですか。

会長：第 3 回協議会で新しい学校のあり方を赤塚第二中や中台中を例に話をさせていただきました。空間の取り方や教科センター方式の導入、あるいは ICT 機器を使った授業を標準的にしたいということ、また、図書館スペースを中心に ICT 機器を使って情報検索や調べ学習ができる学校を作っていくコンセプトをお話ししました。また、体育館や給食室に防災面の対策も盛り込んでいます。今後、他の施設との複合化も想定されますので広い敷地で、高低差を利用できる学校がよいのではないかと考えています。

委員 (4)：これまでの協議会資料から、向原中へ新校を建設する方がよいのではないかといます。ただし、人口動向の将来ビジョンを見誤ってしまうと危険だと思っています。人口動向の影響は顕著ですので、魅力ある学校をつくることで子どもさんが集まり、恒常的に学校運営がなされるように進めていただきたいです。その話し合いの期間にしては短いと感じています。新校舎の開校

年である東京オリンピック開催に向けてという切り口もあるのではないのでしょうか。校名は魅力ある学校というのを含めたコンセプトで新しい校名の検討を進めてはいかがでしょうか。

委員 (5) : 平成 32 年頃から大学入試制度が変更される報道がされており、幼保小中連携がより一層重要になっていくと思います。上板橋第二中と上板橋第二小が道を挟んで向かいにあるという、この立地条件は大事で、校庭を見通せる校舎配置にして小学生が中学生の様子を見られるというのも必要なのではないのでしょうか。小中連携という意味では、上板橋第二中の今の場所に校舎を建てるのがよく、防災面でも連携できるメリットがあると思います。校地の広さでは向原中がよいのは分かりますが、工夫すればクリアできるのではないかと思います。校名は両校とも思い入れがあり、今は決められないです。

委員 (6) : 学校の敷地については、今後板橋区は小学校も建て替えていくのでしょうから、広い向原中に建てた方がよいと思います。空いた上板橋第二中の土地については別の有効活用ができると思います。校名については歴史を 1 から始めるのが一番いいのではないかと思います。関係者はともに校名に愛着がありますので、新しい校名で新たな歴史を作っていく方がよいと思います。

委員 (7) : 広さからいうと向原中の方が広いのは明らかです。うわさで、向原小が上板橋第二小と統合し、上板橋第二中の土地は代替地になるという話を聞きましたがそうなののでしょうか。

事務局 : いたばし魅力ある学校づくりプランには、老朽化が進んだ学校として向原小の校名を掲載していますが、どの学校と統合するか、学校を建てる場所についての予定されたものはありません。

委員 (7) : みなさんそうだと思いますが、卒業生として上板橋第二中を残してほしいという気持ちはあります。小中連携がとれる立地条件が備わっており、広さに関しても校舎の配置をもっと知恵を出し合えば、よい方法があると思いますので、上板橋第二中への建設がよいと思います。

委員 (8) : 第 4 回協議会資料をみると、環状七号線を境に小茂根 4 丁目、小茂根 5 丁目からかなりの人数が練馬区立開進第四中に就学しています。環状七号線を境として通学区域を考えると、向原中の校地は通学区域の真ん中にあるとまではいかないまでも、よいエリアになるのではないかと思います。校名は 2 校の在校生徒から新しい校名を募集してはいかがでしょうか。校地は向原中がいいと言っているわけでも、反対でもありません。上板橋第二中の土地は区が売却を考えるのであれば利用度が高い土地だと思われまますので、区の利点があるのではないのでしょうか。

委員 (9) : 戦後六三制が導入され、いち早く建てられたのが上板橋第二中でした。先程から上板橋第二中が狭いことが挙げられて、せつない気持ちで聞いております。戦後、地主が学校、地域のために土地を提供して学校や体育館、プールができたという経歴がある学校です。60 何年か前に地元の地主が犠牲を払って作った上板橋第二中をなくさないで欲しい気持ちです。

委員 (10) : 向原中の卒業生の立場としては両校残して欲しいと思いますが、向原小が仮になくなるとすれば小中一貫も見据えた学校を作っていくべきだと思います。いずれ小中一貫になることを踏まえて進めて欲しいです。校名については在校生に新しい校名を聞いたり、保護者の意見が大事だと思います。オブザーバーはじめ現役の保護者を入れて進めていった方がよいと思います。

委員 (11) : 両校とも建築のメリット・デメリットがあるのが分かりました。上板橋第二中の校地の狭さは工夫すれば解決できる方法はあると思います。上板橋第二小・上板橋第二中は隣接しており、小中が連携した教育ができると思います。現在も金管バンドと吹奏楽部が連携して音楽会をしていると伺っています。上板橋第二小、上板橋第二中は防災備蓄倉庫も持っていますし、災害拠点として連携もできるので、上板橋第二中を残してもらいたい気持ちはあります。校名・校歌については 2 校ともそれぞれ思い入れはあると思いますが、特にこだわりはありません。

委員 (12) : 上板橋第二小、向原中を卒業し私も複雑な思いがあります。向原中は上板橋第二中の分校であることは知っています。どちらを選んでもメリット・デメリットがありますが、校地が広いことと防災面を考慮し、向原中に建てた方がよいと思います。生徒数が少ない向原中が上板橋第二中に

行く方向性がよいと思います。「小竹向原」の駅名のように両校の校名を入れたものがよいと思いますが、募集して新しい校名とすることもよいかと思います。

委員 (13) : 環状七号線より北側は桜川中に通学区域を変更する予定ですか。

事務局 : 通学区域については今後協議会で検討していく内容ですが、可能性としてはあります。

委員 (13) : 板橋区は「小中連携教育」を採っているので「小中一貫教育」は現在考えていないとのことでしたが、近いうちに検討する時期がくると思います。向原小の老朽化もあり、何年か先に向原小と上板橋第二小についても、統合を含め検討されるのではないのでしょうか。そこで、上板橋第二中の校地に小中一貫の校舎を建築し、上板橋第二小の西側にある民有地を購入して授業中は学校の校庭として使用し、休日等には都立駒沢運動公園のような施設をつくり一般区民に開放し、また、校庭の地下に防災備蓄施設等をつくり災害時防災拠点にもなる、このような魅力ある学校がつくれればと思います協議会に参加しました。今改築を急がずに上板橋第二中・向原中・上板橋第二小・向原小の4校セットでの改築を提案致します。校名については特段考えておりません。

委員 (14) : 今回の協議会は向原中の生徒数の減少を要因の一つとして始まっています。上板橋第二中との統合の検討ですと、小中一貫を考えて上板橋第二小と上板橋第二中を一体化して、向原中の生徒は上板橋第二中に行くということが一番自然だと思いました。しかし、板橋区では小中一貫校を考えていないので、小学校は小学校、中学校は中学校との統合ということであれば、上板橋第二中ですと建築条件を考えると高い建物ができる状況ではないと思いますので、校地は敷地が広い向原中として、校名については新しくするのが一番よいと思います。

委員 (15) : 当町会では向原中の生徒数が非常に少ないことは知らない方が多く、何らかの対策を講じなければならぬこと、つまり統合については反対の意見はありませんでした。当町会は環状七号線より北側になるので、今後通学区域が桜川中側になるのか、現行のままなのかで大きく変わります。環七の北側が違う学区になっても通うことができるのでしょうか。仮に中学校の通学区域が変わった場合、小学校の通学区域も同時に変更となるのでしょうか。個人的な意見としては、上板橋第二中には生徒が多く、向原中は生徒が少ないという現状をみてほしいということで、その原因は、一般的に上板橋第二中の方が通学の利便性がよいと考えるのではないのでしょうか。土地の広さや建物規模を考えると向原中の土地に建てる方が良い条件であることは分かりますが、現状から判断した利便性等の面も考慮されてはどうかと思います。

事務局 : 通学区域校が桜川中に変った場合は入学予定校変更希望制の範囲で入学が可能です。小学校の通学区域については中学校の通学区域の検討の際に併せて検討します。

委員 (16) : 未来の子どもたちの生活や授業の充実面を考えると面積が広い向原中に建てた方がよいと思います。また、新校として新しい校名で始める方がすっきりするのではないかと思います。今後入学を控えた生徒や保護者に名前を募集することは良いアイデアだと思いました。けれども、卒業生の気持ちを察すると寂しい気持ちがあると思うので、両校の伝統と校名を引継ぎ「上板橋第二・向原中」にするのも選択肢の一つかと思います。この先向原中の生徒が減少し、学校運営が厳しくなるかもしれません。そうなった場合、上板橋第二中への編入はやむを得ないと思います。保護者としては、未来の子どもたちを主役に考え、早く方向性を決めて魅力ある学校の内容について検討したいという気持ちです。

委員 (17) : 上板橋第二中保護者を対象に統合についてのアンケートを実施しました。「今通学時間が30分以上かかるのにそれ以上になってしまっは困る」、「子どもたちを考えると広い校地の方がよい」等様々で、意見として集約するには難しい内容でした。また、1つの家庭の父母でも「予算を考えると校地は向原中、制服等の費用がかかるので校名は上板橋第二中を引継ぐ」、「今の上板橋第二中の土地で新校名」など全く別の意見という例も見られました。5年生の保護者からは「中3の受験時に統合で教員も変わってしまうのであれば、別の学校に進学しようか」といった意見も聞いてお

り、今の時点で方針が決まっていないことが保護者にとってデメリット以外の何物でもない状況になっています。なるべく早く方針を決め保護者に知らせていただきたいと思います。個人的な意見としては、卒業生で、小学校との連携もできる場所であり、校地は地盤が安定していると聞かされて育ったので、学校の土地の安全面も考慮し、防災拠点としても、上板橋第二中の土地に上板橋第二中を建ててほしいという考えはあります。

委員 (18) : 上板橋第二中で保護者アンケートを実施して、様々な意見があり実施してよかったと感じています。協議会に今まで参加し、方向性は分かっていますが、今はまだ意見聴取の段階であり、保護者の立場としてはできるだけ早く決定し知らせてほしいです。様々な意見は出てくるでしょうが、子どもたちのために一番よい結論になることを希望します。個人的な意見としては、少子化も進んでいるなかで広い敷地、大きな校舎ばかりにこだわらず、今の上板橋第二小・上板橋第二中の連携を保つためにも、上板橋第二中の土地に上板橋第二中を建ててほしいです。

委員 (19) : 向原中生徒・保護者を対象に統合に関するアンケートを実施し回収率は86%でした。「①どちらの土地に建てた方がよいか」「②統合方式③統合後に残してほしいもの」「④自由意見」の内容で、①は大多数の方が広い向原中の土地に残してほしいとのことでした。②に関しては、向原中を残した方がいいという意見もありましたが、2/3の意見は2校を廃止して新しい学校をつくるのがよいという意見でした。③は「学校名、校歌、制服、歴史、部活」等、生徒たちが向原中を愛していると感じられ、保護者は「向原の名称、少人数学習、きめ細やかなケア、茶室」等でした。④には「統合していじめやけんかを心配する」保護者の声や、「地盤がしっかりした方に」「母校がなくなるのは寂しい」、「入学生が少ないことによる統合の前倒しはやめて」、「協議会の話合いの速度が遅い。教育委員会の考えを早く開示し、どのように穏便に統合できるかを話し合って」「遺恨を残すので両校とも同時に歴史を閉じるのがよい」とする意見もありました。第2回協議会で向原中の生徒数が減った原因を流されてしまったように感じましたが、改築の話があったために板二中に流れる現象が起き、今の生徒が少なくなっているように感じます。改築のつもりで入学し耐震工事だけで卒業した生徒もいました。2校とも歴史があり、思い入れはあると思いますが、今後遺恨が残らず、魅力ある学校ができるように考えて進めてほしいと思います。

委員 (20) : 今回は小規模と学校改築の別々の話からこの協議会がスタートしました。向原小の単学級で6年間変化のない学校生活を送った中で、子どもの心の成長を考え、中学校3年間は人数が多い上板橋第二中に進学させました。できるだけ次の世代の子どもたちのことを考えると、上板橋第二中の土地に建てるよりも向原中に建てればもっと有効に活用できるのではないかと思いますし、防災の面でも拠点になるということでよいと思います。そして、校名については卒業生のことも考えると、何かしらは残してあげたいと思いますので、場所は向原中、名前は上板橋第二中にしたいというのが私の個人的な考えです。

次回予定

下記ホームページをご参照ください。※月に1回程度開催する予定です。
協議会は原則傍聴できます。詳しくは下記までお問い合わせください。

協議内容予定

前回協議会の意見集約と質問事項に関する教育委員会事務局の説明、意見交換
事務局持ち帰り事項：①小中一貫教育に関する板橋区の考え②魅力ある学校とは

発行元 板橋区教育委員会事務局 新しい学校づくり担当課 適正配置第一グループ

電話 3579-2624 FAX 3579-4214

※魅力ある学校づくり協議会（上板橋第二中・向原中）は区ホームページからご覧いただけます。

http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/063/063153.html